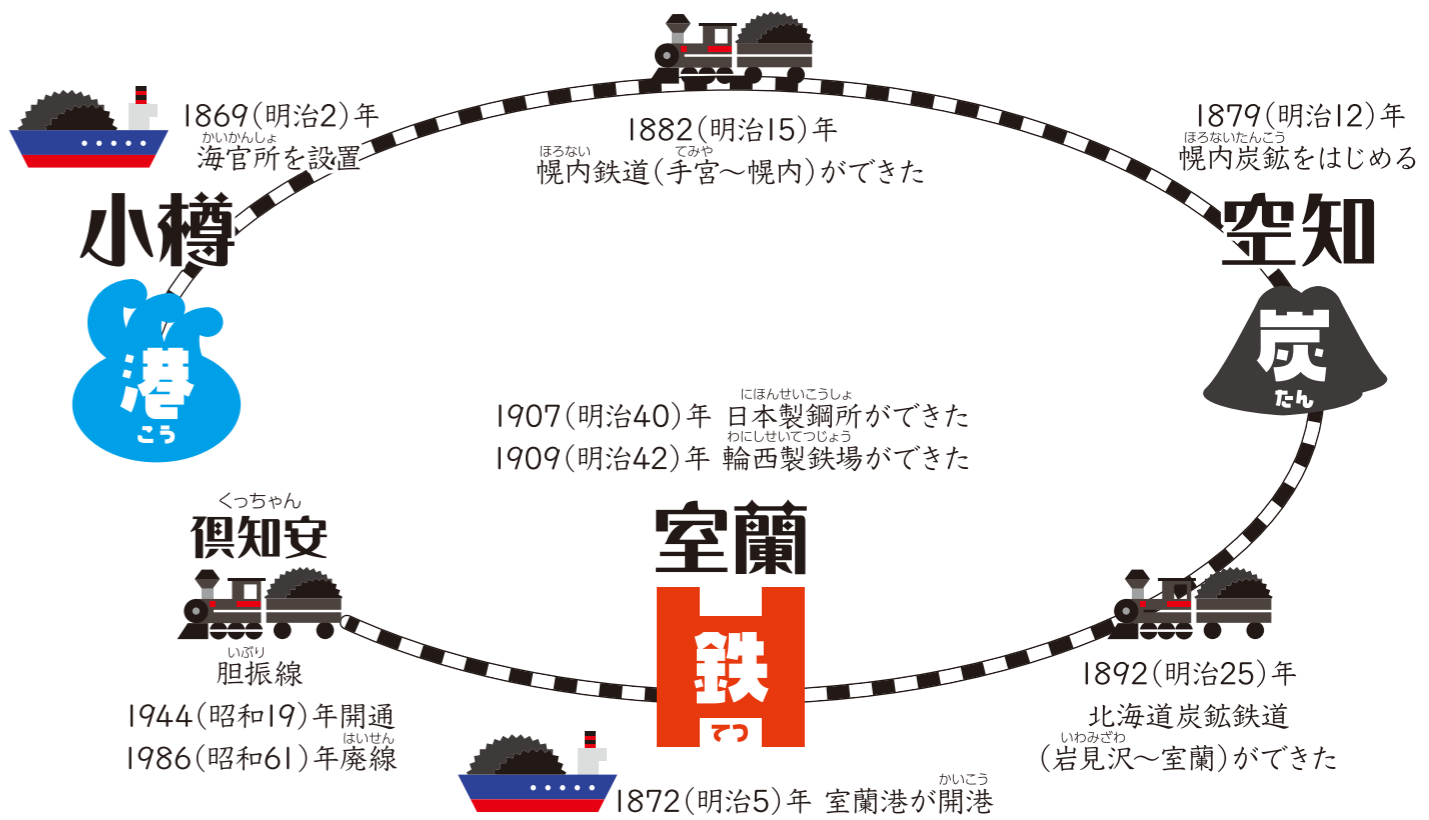


# 「炭鉄港」って、なにかな？

昔、北海道は「蝦夷地」とよばれていました。「北海道」とよばれるようになったのは、およそ150年前、明治時代になってからです。そのころ、北海道に開拓使がおかれ、アメリカやヨーロッパなどの進んだ技術を取り入れて、新しく生まれ変わろうとしていました。

1882(明治15)年、「小樽」と「空知」は鉄道で結ばれました。空知でほられた石炭を運び、小樽港から日本各地へ石炭を運び出すためです。やがて、「室蘭」では空知の石炭を使って鉄をつくるようになりました。

日本遺産「炭鉄港」は、この三つの地域がつながることによって、どれほど日本の発展に役立ったのかを伝える取り組みです。それぞれの地域にある歴史的なものを見たり、その時代を知る人の話を聞いたりして、北海道の近代化について調べてみましょう。



## 「炭鉄港」って、なにかな？

### ★北海道に鉄道ができたのはなぜ？〈小樽～空知／幌内鉄道〉

- ▲なぜ空知の石炭が必要だったの？
- ▲炭鉱にはどんな暮らしがあったの？
- ▲炭鉱にあつたものを見てみよう
- ▲空知の炭鉱街の味

### ★なぜ空知の石炭を室蘭へ運んだの？〈空知～室蘭／北海道炭鉄鉄道〉

- 鉄は、どうやってつくるのかな？
- 室蘭には、どんな暮らしがあつたの？
- 鉄のまち室蘭を歩いてみよう
- 室蘭にしかない食べ物は何？

### ★鉄の原料を運ぶ鉄道もあつた？〈室蘭～倶知安／国鉄「胆振線」〉

- 小樽に港ができたのはなぜ？
- 小樽にはどんな人が集まつてきたの？
- 歩きまわるほど小樽の歴史が見えてくる
- 小樽に市場やお菓子屋さんが多いのは？

## 北海道の開拓と薩摩の人々

## もつと知りたい！「炭鉄港」

36

34

32

30

28

26

24

22

20

18

16

14

12

10

8

6

4

2